

クルーズ船体験記

(一社) 日本硝子製品工業会 専務理事

井上 昌治

Cruise ship experience

Shoji Inoue

Executive Director, The Glassmanufacturers Association of Japan

この度コラムの執筆を依頼され、何を書くか思案して、以前から一度は、大型クルーズ船に乗ってみたいと思っていて、実際に短い期間であったが乗船した体験記を書く事にした。

船名は、ダイヤモンド・プリンセス号、あの船である。日本で建造され、英国船籍で米国の会社が運行していた船である。総トン数約11万6千トン、乗客約3千人、乗組員約1千人で、日本人向けの施設も備えた客船である。

乗船したのは、コロナ騒ぎになる2ヶ月ほど前の2019年11月末から12月にかけての9日間であった。

今、思い出しても運が良かった。運悪くその時乗船していたらコロナに罹って、船内に缶詰になっていたかもしれないのである。

初日は、横浜の大栈橋国際線ターミナルに昼過ぎに行き、出国・乗船手続き後、台湾の基隆までの往復約4,200kmの航海が始まった。

船中は外国である。船中には、レストラン、バー、カジノ、シアター、無論、プールもスポー

ツジムもある。1日、朝、昼、晩の食事以外にも、小腹が空いたら、いつでも軽食が食べられる。3食昼寝+おやつ付きだ。ただし、アルコールは、別料金である。

基本、海外のホテルでの過ごし方と同じであるが、日中はカジュアルな服装、夕食は、通常、スマートカジュアル（スラックスに襟付きのシャツとジャケット）、時々、フォーマルの日があるのだ。正装もしくはダークスーツにネクタイ着用である。

フォーマルの日は、男性より女性は大変である。皆、着飾ってレストランに向かうのだ。

最初の寄港地、沖縄の那覇に向けて2日間の航海中、船内を散策、夕方はスポーツジムに行き1時間程度汗を流し、それから、船室のバルコニーでビールを飲む。

流石に12月なので、風が冷たい、早々に部屋に引き上げた。

夕食は2交代制で、小生らは、7時45分と微妙な時間設定である。

早く済ませて、夜のショーを見に行くことにした。

ショーは、毎夜、出し物が変わる。また、シアターだけでなく、ロビーでピアノ演奏、バーでジャズ演奏など、各種イベントが開催され、乗客を飽きさせない。

〒169-0073

東京都新宿区百人町3-21-16 日本ガラス工業センター3階

TEL 03-5937-5861

FAX 03-5389-7010

E-mail: inoue_glassman@yahoo.co.jp

那覇港には、4日目の朝方着岸、市内の観光に向かうが、楽しみにしていた首里城は火災にあっていた。せっかくなので、遠くから眺めて国際通りを散策、夕方には、船に戻る。那覇では、もう一つ楽しみにしていたものが、30年来の友人で、那覇市に移住した人と食事でもしようと連絡を取ったが、あいにく月曜日で仕事を休めないと云う。残念だが、次に機会に見送る事とした。

5日目の朝には石垣島であったが、悪天候のため寄港出来ず台湾に向け終日航海となった。

楽しみにしていた、竹富島での水牛車観光ができないことになった。

6日目の朝、台湾の基隆に着岸。台北市内のバスツアーに参加、代表的な観光先である故宫博物院、中正記念堂、忠烈祠等を見学した。夕方、船に戻ると横浜に向けて出港である。短い

時間ではあったが、古い街中も散策したが、余裕を持って観光したい町であった。

このリゾートクルーズは、ほとんどを船中で過ごし、寄港地では、朝方着岸し、日中は観光、夕方には出港と色々と観て回りたい自分としては、欲求不満になるツアーであった。

しかし、女房殿にとっては、家事から解放され優雅に過ごした、ひと時であったに違いない。

